

計画期間：平成24年12月～平成29年3月（4年4月）

．中心市街地全体に係る評価

1.平成26年度終了時点(平成27年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成24年12月以降、認定基本計画に基づき、「誰もが楽しめるまちの形成」「便利で安心なまちの形成」「新たな来街を促す観光地の形成」の基本方針のもと事業を実施している。

認定基本計画掲載事業の進捗状況は、基本計画に位置づけた全52事業のうち、現在までに「事業効果分析事業（都市再生整備計画）」、「保育所民営化」、「日南市中心市街地魅力発掘事業」の3事業が完了、36事業が実施中、13事業が未着手となっている。

主な事業については、民間事業である「岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（複合機能ビル建設事業）」が当初平成26年度中に工事着工の予定であったが、近年の資材や労務単価の高騰により、事業計画・設計の見直しが必要になったため、平成27年度の着工となり、複合機能ビルに入居予定の「子育て支援施設事業」、「市民活動支援センター整備事業」も含め事業に遅れが見られる。また、「観光拠点施設整備事業」についても、当初予定から遅れが生じている。

一方、商店街の振興については、「テナントミックスサポート事業」、「空き店舗対策事業」等により、平成26年度中に商店街に新規出店が1店、移転リニューアルオープンが1店あるなど、にぎわいが増大している。平成27年11月には、商店街に「多世代交流モール」がオープン予定になっており、商店街への集客効果とにぎわいづくりがさらに図られるものと期待している。

また、目標指標である「1日平均歩行者・自転車通行量」と「定住人口」については、歩行者・自転車通行量は平成25年度に大きく減少したが、平成26年度には再び増加が見られたところである。しかしながら、依然基準値を下回っている状況のため、今後の事業実施により活性化を図る必要がある。

なお、定住人口についても、人口減少が当初見込みよりも進行している状況のため、空き家の利活用や定住促進等の事業により、さらなる推進を図ることとしている。

2.平成26年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、平成26年度中に4回の協議会を開催するとともに、中心市街地活性化の取組みを円滑かつ効果的に推進するプロジェクト会議や、関係者で構成される油津まちづくり会議などに参加し、情報を共有しながら官民協働の取組みができた。

基本計画の核となる岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業や、多世代交流モール整備事業、子育て支援施設事業等が平成27～28年度に完了予定のため、現時点で歩行者・自転車通行量と定住人口の目標達成に向けた大きな進捗は見られない状況である。今後とも目標達成は無論のこと、活性化に向けた事業を実施し、行政や商工会議所、民間事業者、地域住民が一体となった取組みがなされるよう、最大限の努力が必要と考える。

・目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
来てよかった、また来 たいまち	1日平均歩行者・自転車 通行量	3,599 人/日 (H23)	4,100 人/日 (H28)	3,312 人/日 (H26)		
住みたい、住み続け たいまち	定住人口	3,281 人 (H23)	3,400 人 (H28)	3,175 人 (H26)		

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

1日平均歩行者・自転車通行量

現時点では1日平均歩行者・自転車通行量の目標値をクリアしていないものの、商店街エリアにおいて実施している「テナントミックスサポート事業」、「空き店舗対策事業」、「来たくなるまちミニプロジェクト」等により、商業地エリアでは若干ではあるが通行量が増加傾向にある。さらに、今後平成27～28年度にかけて、商業地エリアで目標値の積算根拠となっているハード事業が完了する見込みであることから、通行量の増加が期待できる。

また、目標値との差が大きい観光エリアでは、「観光拠点施設整備事業」の完成により集客と回遊の拠点とし、「高質空間形成施設事業」、「まちなか案内サイン整備事業」を引き続き実施することにより回遊環境を整備する。併せて「水辺の憩い空間づくり事業」、「油津観光促進事業」等のソフト事業により回遊を促す仕組みづくりも行うことで、観光エリアにおいても通行量の増加が期待できるため、目標達成は可能と考えられる。

定住人口

中心市街地の定住人口については、計画策定時の予測よりも人口減少が進行している状況にある。市全体も減少傾向にあり、中心市街地も市平均と同程度の減少率となっている。

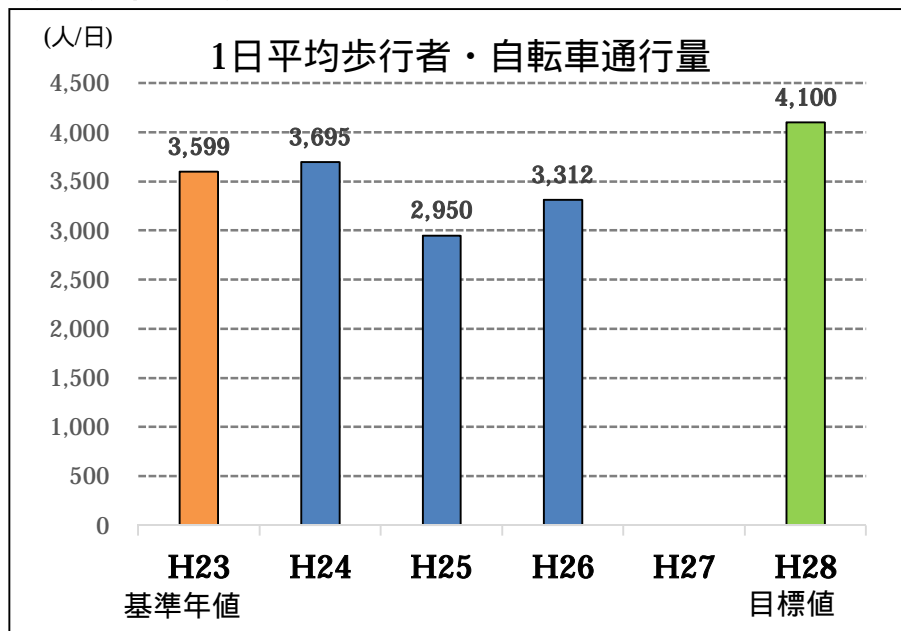
今後「岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業」等により、一定の人口は確保できる見込みであるが、中心市街地には空き地が少なく、新規の建築が見込めないことから、空き家の利活用をより一層推進するなど、今後対策を講じる必要がある。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「1日平均歩行者・自転車通行量」 目標設定の考え方基本計画 P151～P159 参照
 調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H23	3,599 (基準年値)
H24	3,695
H25	2,950
H26	3,312
H27	-
H28	4,100 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行者（毎年原則として8月第一週の日、月曜日に実施）

調査月：毎年8月

調査主体：日南市

調査対象：中心市街地14地点において、9～19時に通行する歩行者・自転車の数を計測

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（日南まちづくり株式会社）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	中心商業地の玄関口となる場所の土地の高度利用を図り、複数の機能を併せ持つ施設を建設する。
事業効果及び進捗状況	商業施設を含めた複数の機能を持つ施設の建設によって、集客を図り、賑わいを形成する。 資材や労務単価上昇により事業計画・設計の見直しを行ったため、事業期間を一年延長し、平成27年度工事着工、平成28年度完成予定。

・子育て支援施設事業

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	保育士による子育て支援サービスの提供や、多くの親子が交流できる施設を設置
事業効果及び進捗状況	中心市街地に安全安心な子育て環境を整備することで、子育て世代の往来によりまちなかの賑わいを生み出す。 岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業で建設する複合機能ビ

ル内に入居予定のため、ビルの完成時期に合わせ、事業期間を一年延長し、平成 28 年度完成予定。

・空き店舗等対策事業

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	空き店舗に出店する人に対し、個店の魅力や質の向上等に係る経費及び店舗改修費の一部を支援する。
事業効果及び進捗状況	新たな店舗が出店しやすい環境を整備することで、店舗の立地を誘導し、消費者を新たに引き寄せることで地域商業力の向上を図る。 平成 26 年度までに 2 件が事業を活用。

・多世代交流モール整備事業

事業完了時期	平成 27 年度【未】
事業概要	商店街の空き店舗を一部取り壊し、高齢者や子育て世代、子ども達などの幅広い世代が交流できるコミュニティ施設を設置する。
事業効果及び進捗状況	高齢者と子育て世代、子どもたちの世代間交流ができる環境を整備することで交流人口を増加させ、まちなかの賑わいを生み出す。 平成 27 年度完成予定。

・観光拠点施設整備事業

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	案内機能や回遊を促す機能を持った観光の拠点となる施設の整備。
事業効果及び進捗状況	案内機能や回遊を促す機能を持った拠点施設を整備することで観光客の滞在時間を延ばし、まちなかの賑わいを生み出す。 場所・機能の見直しを行ったため事業期間を一年延長し、平成 28 年度完成予定。

・歴史的由緒施設開館事業

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	登録有形文化財等を活用した観光中間拠点施設の運営。
事業効果及び進捗状況	観光環境の向上を図るため、回遊ルート上に観光案内を兼ねた休憩スペースを設置し、回遊性の向上に繋げる。 平成 25 年度 9,432 人、26 年度 8,867 人の利用があった。

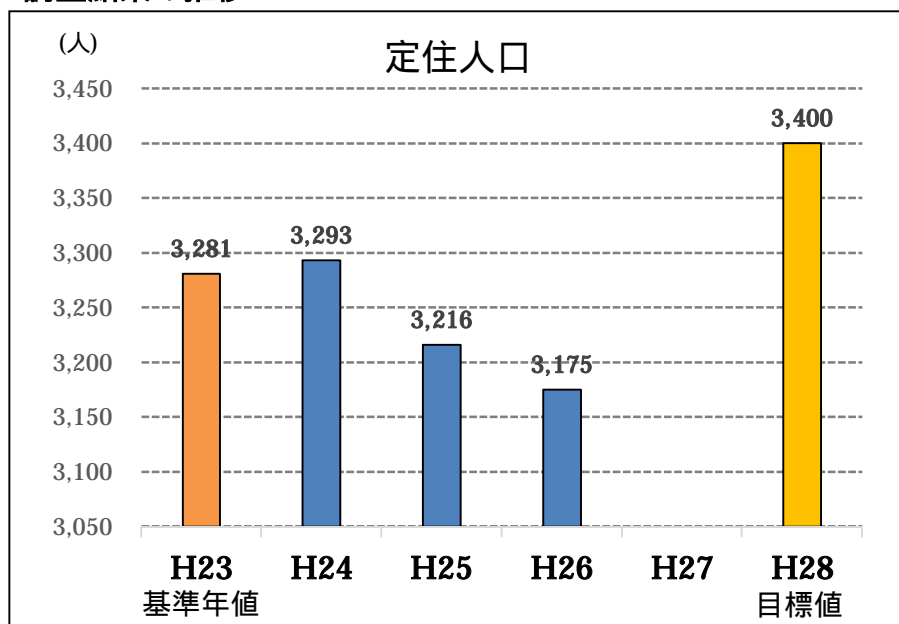
目標達成の見通し及び今後の対策

1 日平均歩行者・自転車通行量については、商業地エリアと観光地エリアを合算した人数を指標としており、全体としては、平成 24 年度に一度上昇した後、その後は基準値を下回る状況が続いている。平成 26 年度調査では、目標値 4,100 人に対し実績値が 3,312 人となっており、788 人下回っているが、調査地点別の通行量を確認すると、商店街を含む商業地エリアでは新しい店舗の出店や、ソフト事業の実施により、若干ではあるが基準値から上昇を続けている。今後は、複合機能ビルの商業施設や子育て支援施設により 497 人の増加を見込んでおり、商店街エリアでも、多世代交流モール整備事業や、テナントミックスサポート事業でのさらなる出店等により 467 人の増加を見込んでいる。これらの事業により、商業地エリアの通行量は増加が期待できる。

観光地エリアについては、減少傾向が続いているが、今後実施される観光拠点施設整備事業により 518 人の増加を見込んでいる。併せて、案内サインの整備や回遊ルートの道路高質化、水辺利活用の社会実験により、新たな観光客の確保に努めながら、観光地エリアの回遊を促す仕組みづくりも行う。加えて、地元住民の自主的な活動であるまちあるきツアーも動き始めたことから、観光地エリアについても通行量の増加が期待できる。これらのことから、目標達成は可能と考えられる。

「定住人口」 目標設定の考え方基本計画 P159～P162 参照

調査結果の推移



年	(単位：人)
H23	3,281 (基準年値)
H24	3,293
H25	3,216
H26	3,175
H27	
H28	3,400 (目標値)

調査方法：中心市街地エリア内の住民基本台帳人口

調査月：毎年10月調査

調査主体：日南市

調査対象：中心市街地内居住者

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（日南まちづくり株式会社）【再掲】

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	まちなか居住を促進するため、利便性の高い商業地の中心部に、住居施設及びサービス付高齢者住宅を整備する。
事業効果及び進捗状況	商業施設、病院、サービス付高齢者住宅、住居施設からなる複合施設を整備し、安心して生活できる居住環境を整備することで定住人口の増加を図る。 平成28年度中の完成を目指し、平成27年度に工事着工予定。

・子育て世帯定住促進事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	子育て世帯の中心市街地への移住を促進するため、家賃の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	子育て世代の移住を促進し、定住人口の増加を図るとともに、地域活力を向上させる。 平成26年度実績5件。

・住宅建築促進事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	中心市街地区域内に住宅を建築し居住する人に、建築費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	空き地の利活用によって住居の所有を促進し、空き地の解消を図るとともに定住人口を増加させる。 平成25年度及び平成26年度の実績なし。

・空き家活用促進事業（日南市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	中心市街地に立地する空き家のみずから居住するために取得する人に対し、空き家購入及びリフォーム費用の補助。
事業効果及び進捗状況	空き家の利活用によって住居の所有を促進し、空き家の解消を図るとともに定住人口を増加させる。 平成26年度実績1件。

目標達成の見通し及び今後の対策

定住人口については、空き家活用促進事業や子育て世帯定住促進事業、今後完成予定の複合機能ビルへの入居者によって一定の成果が得られると考えているが、計画策定当時の見込みよりも人口減少が顕著に見られ、目標達成が厳しい状況にあると見込んでいる。対策として、中心市街地内は新築物件を建築できる土地が少ないため、平成27年度より空き家利活用促進事業の拡充を行うこととしている。

さらに、他の各種施策の実施により、住みやすいまちであるとの周知に努め、人口減少を抑制することで目標達成に繋げていく。